

所属・資格 中国語中国文化学科・教授

申請者氏名 張 麗群

研究課題		初・中級中国語教育における数量表現のあり方及びその役割について
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>現在の初・中級中国語教育において、数量表現、特に量詞について触れることが非常に少ないと感じる。初級テキストでは常用数量詞をいくつかあげる程度にとどまり、中級テキストにおいても教科書によってまちまちであり、どのような数量詞を初級で習得すべきか、またどのような数量詞を中級で習得すべきかについては体系的にまとめたものはない。そのため、初・中級の中国語学習者が往々にして中国語を使う時、量詞を間違えて使用するか、まったく量詞を使用しないケースが多く見られる。そこで本研究は中国語数量表現のあり方及び役割を明らかにしつつ、量詞のより習得しやすい方法とは何かについて探ってみた。</p> <p>筆者は現在使用されている初・中級中国語教科書、中国語検定などにおいてどのような量詞がどのようなレベルで使われているかを調査し、その中から使用頻度の高い量詞（度量衡などを含む）55語を選出し、『中国語量詞（助数詞）55語—初・中級編』にまとめることができた。</p>
	研究の結果	<p>『中国語量詞（助数詞）55語—初・中級編』には以下のような特徴がある。</p> <p>①たくさんある量詞(度量衡などを含む)の中から、使用頻度の高いものを優先して選んだ。</p> <p>②初心者でもスムーズに始められるように、量詞の順番や例文の難易度も工夫し、使用頻度の高いものを先に挙げ、例文もできるだけ簡単で、すぐに使えるようなものにした。</p> <p>③ユニットに分け、まず各量詞の意味を説明した上で共起する名詞(動詞)を提示し、次に量詞を含むフレーズ、文を挙げ、さらにレベルアップコーナーも設け、段階を踏みながら習得できるようにした。</p> <p>④学習者が量詞の定着度を測れるよう、ユニットごとに総合練習問題を用意するだけでなく、全体の量詞を対象とする穴埋め問題も設けた。</p> <p>⑤量詞の意味や用法を視覚的にイメージしやすくするために、量詞と共起できる名詞(または動詞)をイラストで示した。</p>
	研究の考察・反省	<p>中国語学習には量詞（助数詞）の習得が不可欠であるが、量詞だけを覚えても応用が効かない。量詞の意味をしっかりと把握し、どのような名詞または動詞と共起するか、具体的な例文、フレーズなどと一緒に覚えながら習得すると、より自然に身につけることができる。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>『中国語で伝えよう コミュニケーション・チャイニーズ』（共著）2019年1月31日 朝日出版社</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>『中国語量詞(助数詞)55語—初・中級編—』朝日出版社（近刊）</p>	